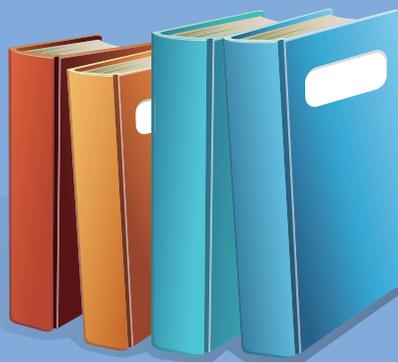


リニューアル

RENEWAL



CONTENTS

- 2 ティーチン開催報告
3 「本はどうなる!本の凄まじさに再び巡る。」
- 4 先生のおすすめ! まんが表現学科 山本忠宏助教
『シネマトグラフ覚書:映画監督のノート』ロベール・プレッソン/著
- 5 図書館からのおすすめ~新着図書より~
- 6 新着図書リスト
- 7 図書館アルバイトのおすすめ!!
図書館職員のおすすめ!!
テーマ「心が温まる本」
- 貸出ランキングTOP5!(2011年7月~11月)
- 8 お知らせ
長期貸出スタート/卒業・修了予定者の返却日
春期休業期間の図書館開館時間の変更/蔵書点検のお知らせ
短期アルバイト募集/The Gallery of KDU Library
開館スケジュール(2012年1月~3月)/編集後記

ティーチイン開催報告



昨年10月15日(土)に、本学図書館主催のティーチイン「本はどうなる!本の凄まじさに再び巡る。」が開催されました。パネラーには、グラフィックデザイナーの鈴木一誌氏、写真家・写真評論家の港千尋氏、本学ビジュアルデザイン学科の戸田ツトム教授をお迎えし、司会は本学図書館長 小山明が務めました。約140名の方にご来場いただき、13時30分から始まったシンポジウムは、パネラーの方々の熱のこもったトークで、終了予定時刻を延長するほどでした。

以下に少しだけ、その講演の概要をお届けします。

※パネラーとして、文芸批評家の福田和也氏もお迎えする予定でしたが、急なご予定が入ってしまい、当日は残念ながらお越しいただくことが叶いませんでしたことを改めてお詫び申し上げます。

本を描く人々
ヨーロッパ近代、絵画において「本を描く技術」が出現した

本という「モノ」
物体としての本を考える、キリスト教の力、キーファーの仕事

開かれた本の話
OPEN WORKS

本、永久運動
原発と大量生産、本の在処の意味

本を捨てよ
電子本への警告

本の未来
我々は間違っていたのか・自然観・芸術観・生活観・エネルギー・安息への希求、について。



(上記のテーマにそって講演が進み、本そのものに対する見かたや感じ方を変えていかないと、未来の本の姿はそう簡単に現れてくれないのではないだろうかとの疑問が投げかけられた。)

グラフィックデザイナー
鈴木 一誌

我々の世界は、正方形に捉われている。まず、活字が正方形であり、携帯電話の文字がドット(正方形)の集合であり、建築の設計図も正方形のグリッドから成り立っている。つまり、正方形からあらゆるものが生み出され、長方形も正方形から派生している。

そして、本とは正方形を巧妙に構築した長方形という発想の塊であり、矩形であるページ、正方形である活字をレイヤー状に積み重ねることで、正方形に依拠した思考法を具体物にしたものともいえる。

電子書籍が本の新しい形を作り出すとするなら、正方形の呪縛から逃れない限り、紙の本の模倣で終わるであろう。

グラフィックデザイナー
戸田 ツトム

本、永久運動
ルネサンス以降、永久運動とは外部から完全に隔離し宇宙と同等の存在だった

象徴と現実
「本」は常に現実の場から離れようとしている

文字の機能
「記録と伝達」はお互いに排除しながら生きてきた歴史

「物体」の思想
哲学や社会学には思想があり、物体には科学がある、と言うが...

本と文字の力
たとえば「薔薇の名前」という作品に、そしてゴミ箱に捨てられた本たちについて



写真家・写真評論家
港 千尋

本という物質は力や象徴性を持っており、それらを無視しては、本の未来は考えられない。一時期メディアを騒がせた紙の書物と電子媒体の問題は、どちらを選ぶというのでも、共存と言うのでもなく、電子化されることによって、本をよく見るようになり、本とは何だったのかということをよく考えるきっかけになったと言ってもいい。また、本が持つ特質の一つは紙の触感やページをめくる時の感触といった感性であり、本が人間に与える感性を我々は完全に捨てることはできないと思う。現に、私が2年前に日本経済新聞社でキュレーションした「タイポロジック」という展覧会も含め、ここ数年ブックアートの展覧会が世界中で増えており、アーティストが多くの本をテーマにした作品を作り続けている。

電子化されたネット上の書籍は、どこからダウンロードしているかも分からないし、元々どんな形をしていたのかも分からず、ファイルとして限りなく断片化していく。それに対して、物を作ることによって本が持っている全体性を配布し、取り戻していくことがデザイナーやアーティストの本の未来に対する権利であり、義務なのではないかと思う。

パネラーの主な著作リスト(※本学図書館に所蔵の有るもの)

グラフィックデザイナー
鈴木 一誌

- ・「知恵蔵裁判全記録」(知恵蔵裁判を読む会との共編) <021.2/CHI>
- ・「重力のデザイン:本から写真へ」 <021.4/SUZ>
- ・「ページと力:手わざ、そしてデジタル・デザイン」 <021.4/SUZ>
- ・「画面の誕生」 <778.04/SUZ>
- ・「映画の呼吸:澤井信一郎の監督作法」(澤井信一郎との共著) <778.21/SAW>

写真家・写真評論家
港 千尋

- ・「書物の変:グーグルベルグの時代」 <020.4/MIN>
- ・「考える皮膚:触覚文化論」 <701.4/MIN>
- ・「新編 第三の眼:デジタル時代の想像力」 <704/MIN>
- ・「瞬間の山:形態創出と聖性」 <748/MIN>
- ・「文字の母たち」 <749.41/MIN>

グラフィックデザイナー
戸田 ツトム

著作

- ・「Drug / 擬場の書物」 <007.63/TOD>
- ・「森の書物」 <021.4/TOD>
- ・「断層図鑑」 <727.04/TOD>

装幀

- ・「肖像画論」 高階秀爾 / 著 <723.3/MOZt>
- ・「ゴダール・映像・歴史:『映画史』を読む」 四方田犬彦・堀潤之 / 編 <778.04/GOD>

港 千尋・戸田 ツトムの共作

- 港 千尋 / 著 戸田ツトム / 造本・装幀
- ・「太平洋の迷宮:キャプテン・クックの冒険」 <297/MIN>

先生のおすすめ!

『シネマトグラフ覚書:映画監督のノート』

ロベール・ブレッソン/著

まんが表現学科
山本 忠宏 助教

視覚表現を志して入学してくる学生の中には、「文章が苦手だから」という理由で絵画、イラストレーション、写真、映画、まんがなどを自身の専門として選択する人も多いのではないだろうか。しかし、視覚表現と言葉は決して分けられるものではない。そんなことを認識させてくれる本を紹介したいと思う。

本書はフランスの映画監督ロベール・ブレッソン(1901~1999)の制作ノートである。自身の映画制作と同じ姿勢で紡がれた言葉は、まるで詩のような配列を印象づける(訳者は松浦寿輝)。序文はノーベル文学賞受賞者のル・クレジオによるものだが、ブレッソンに対して「芸術における儉約と正確さ」という言葉を残している。この「儉約」からは、「貧しさ」というブレッソンの映画における特徴がよく表れている。俳優を「モデル」(ファッションモデルの意ではない)と呼び、自然状態における人間をカメラの前に存在させ、虚構を作り出すための演技を一切排除していく映画。これらは現在の「豊かな」映画と真っ向から対立する映画である。抑揚のついた演技、安易な音楽の多用などフィクションに装飾をつけて「現実」を模造する映画が世界を席巻している一方で、ブレッソンは「フィクションを映画化しつつ、しかし画面から徹底的にフィクションを排除しようとするこの奇妙な企て」(訳者後記より引用)という矛盾した問いを、生涯をかけて試みた。

このノートにある言葉も、映画と同様に華やかな装飾はなく無骨なものである。だが、それ故にブレッソンの矛盾の上に立つ思考の痕跡が剥き出しになっており、読む者の心に直接的に響いてくる。視覚、聴覚の表現に携わる者ほど、いわゆる処世術としてのプレゼンテーションではなく、自らの言葉で思考することの重要性を認識させられる一冊である。

最後に一つ、引用しておく。

「君の見出すものが君の期待していたものではないということの方が、有益だ。不測の事態に興味をそそられ、興奮をかきたてられること。」

図書館所蔵のブレッソン監督作品はこちら

- 『ブローニュの森の貴婦人たち』 <A778.235/BUR>
 - 『ジャンヌ・ダルク裁判』 <A778.235/JAN>
 - 『少女ムシット』 <A778.235/SHO>
 - 『スリ』 <A778.235/SUR>
- 他



(3月まで「先生のおすすめ!」コーナーにあります
が、通常どおり貸出できます。)
<778.235/BRE>

ビジュアルデザイン学科

『学校アピールのためのレイアウト:大学・専門学校--キャンパスライフを伝える学校案内実例集』
<674.7/GAK>

全国の大学や専門学校が制作する入学案内や学校案内のパンフレットを集めたデザイン見本帳。ひとくちに学校案内のパンフレットといっても、編集の仕方やデザインは多種多彩。ターゲットを惹き付け、それぞれの校風を伝えるための工夫が凝らされているのがよく分かります。皆さんなら、芸工大のどんな学校案内を作りますか?



ファッションデザイン学科

『感じる服考える服:東京ファッションの現在形』
高木陽子 / [ほか] 編著
<589.2/KAN>

この本は、現在神戸ファッション美術館で4月1日まで開催中の同タイトルの展覧会に際して出版されたもので、現在東京のファッション界の中でも、特に注目されている比較的若手の10組のデザイナーによる作品とインタビューで構成されています。作風はそれぞれ違っても、共通しているのは、企業に所属せずに、自らブランドを始めたインディペンデントな人達だということ。本を片手に実際の展覧会にも行ってみよう!



プロダクトデザイン学科

『Love the light, love the life:時空を超える光を創る』
石井幹子 / 著
<545.6/ISH>

日本のライトアップデザイナーの第一人者・石井幹子氏が、「この道」と題して『東京新聞』の夕刊に50回にわたって連載したものを加筆してまとめられたこの本には、照明デザイナーとなるまでの道程、世界各地の夜を彩った数々のプロジェクトがどのように出来ていくのか、自然と共存する光の未来についてなどの事柄が、数々の美しいライトアップの写真とともに綴られています。



環境・建築デザイン学科

『浅草のうち(くうねるところ)にすむところ;27 家を伝える本シリーズ』 乾久美子 / 著
<527/KUU/27>

著者曰く、「この絵本の中にはたくさんの「家」ができます。たくさんの人が楽しむ括弧付きの「家(浅草)」、その浅草をバラフレーズした「家(ビル)」、そしてアイとおじいさんが家族と共に住む家(うち)。そうしたさまざまな「家」の姿と魅力を通して、家と「家」の自由さ、楽しさ、かけがえのなさを伝えたい、そんな気持ちでつくった絵本」だそうです。みなさんも是非そんな著者からのメッセージを感じてみてください。

まんが表現学科

『マンガの脚本概論』
竹宮恵子 / 著
<726.1/TAK>

京都精華大学マンガ学科教授にして少女マンガ界の大御所、竹宮氏の著作。マンガの絵の描き方ではなく、ストーリーの組み立て方、読みせ方の本なので、文字が多いような印象ですが、表現者であり教授でもある著者ならではの、具体的なアドバイスが満載。同大学マンガ学科の学生さんの作品(課題)も掲載されているので参考にしつつ、まずは気になる章から読んでみてください。



映像表現学科

『映像製作D.I.Y』
<778.4/EIZ>

近年の映像文化の発達で、個人で映像制作ができるようになり、それを動画サイトで簡単に、しかも世界中に発信できるようになりました。本書では、手描きの絵や切り絵を用いたシンプルなものから、プログラミング知識が必須のテクニカルなものまで、映像作家の先生がレクチャーしてくれます。アイデアがあるのなら、この本を読んでとりあえず形にしては?そして、作品が出来たら図書館入り口で上映してみませんか?待ってます!



クラフト・美術学科

『美男美術史・入門:女子のための鑑賞レッスン』
池間草 / 著
<707.9/IKE>

絵画の中の「美女」を扱った本は数あれど、これは「美男」の鑑賞入門。「イケメン」という言葉が一般的になったとはいえ、やはり「美男」とは格調と深みが違うというもの。著者が独断と偏見でセレクトした和洋の美しい男達に誘われ、いざ美術史の旅へ。巻末には美男への妄想と愛がほとばしった、映画、文学、はては四字熟語にまで及ぶリストが!もちろん、男子が読んでも良いと思います。



その他一般

『「なぜ?」から始める現代アート』
長谷川祐子 / 著
<B702.06/HAS>

よくわからないけれど、なぜか惹かれる、面白い。アートと出会うときに生まれるさまざまな「なぜ?」を入り口として、多様な作品の見方があること、発想があることを、いま最も注目すべきアーティストの作品を探り上げながら、その鑑賞のポイントと共に教えてくれるお得な一冊。難解だと思われがちな現代アートの新しい楽しみ方が見つかるかも?!



新着図書リスト [2011年11月1日~11月30日] ※就活・就職関連図書コーナーに有ります

ビジュアルデザイン学科

デザインの組み方 甲谷一/著 <021.4/KAB>
 新・文字組みとレイアウト <021.4/SHI>
 Supergraphics <529/SUP>
 WordPressレッスンブック エビスコム/著 <547.48/EBI>
 地域発のデザイン <674.3/CHI>
 建築・不動産グラフィックス <674.3/KEN>
 P.O.P.DISPLAY DESIGN <674.3/POP>
 Tokyo graphic passport world tour <674.3/TOK>
 世界のカタログ・パンフレット事例集 <674.7/SEK>
 1,000 ideas by 100 manga artists <726.1/ONE>
 杉浦康平 = Kohei Sugiura <727.087/SEK/100>
 レイモン・サヴィニャック <727.087/SEK/97>
 工藤青石 = Aoshi Kudo <727.087/SEK/99>
 トップクリエイターが魅せる「色」で伝えるデザイン <727/DEZ/39>
 Guide sign design <727/GUI>
 公文知洋子裂織の世界 公文知洋子/著 <753.3/KUM>
 Sketchbook Timothy O'Donnell/著 <757/ODO>

ファッションデザイン学科

girls ZINE <051/GIR>
 古代服飾の研究 増田美子/著 <383.1/MAS>
 合成染料の技法 高橋誠一郎/著 <587/TAK>
 世界へひらくJapan Fashion <589.2/SEK>
 スウィートハンカチーフ <589.22/SUW>
 日々、きものに割烹着 猪谷千香/著 <593.1/IGA>
 フェイスハンター イヴァン・ロディック/著 <593.3/ROD>
 Fashion illustration works 平澤伸洋/著 <593.36/HIR>
 刺繍ブローチ Hipota/著 <594.2/HIP>
 ベビーシューズコレクション 小沢美司子/著 <594.2/OZA>
 Vogueメイクアップ百科 ジュリエット・コーエン/著 <595/COH>
 マリー・アントワネットの宮廷画家 石井美樹子/著 <723.35/VIGI>
 爆弾にリボン 山本美希/著 <726.1/YAM>
 草木の染色ノート 加藤國男/著 <753.8/KAT>
 染め手挿し型染め入門 <753.8/SOM>
 藍染おりがみ紋り 高橋誠一郎/著 <753.8/TAK>
 ハーブ染めレッスン 梅原亜也子/著 <753.8/UME>

プロダクトデザイン学科

Sketching Koos Eissen & Roselien Steur/著 <501.8/EIS>
 共振のデザイン <501.8/KYO>
 凝縮の美学 鈴木正文/[ほか]執筆 <507.9/GYO>
 Robotics = ロボティクス 日本機械学会/著 <548.3/NIH>
 エキシビジョンセレクトデザイン <674.5/EKI>
 パッケージデザインの勘どころ <675.18/PAK>
 北欧デザインの巨人たち 萩原健太郎/著 <757.023/HAG>

環境・建築デザイン学科

災害の住宅誌 牧紀男/著 <369.3/MAK>
 The days after 石川梵/著 <369.31/ISH>
 3・11メルトダウン <369.31/SAN>
 橋のディテール図鑑 久保田善明/文・写真 <515.5/KUB>
 水と緑の計画学 萩原良巳, 萩原清子/編著 <517/MIZ>
 住まいのまちなみを創る <518.83/SUM>
 関西56人の建築家と家をつくる。 <520.28/KEN/11>
 世界でいちばん〇〇(まるまる)なタテモノ <520.4/SEK>

廃墟手帳 中田薫, 中筋純/著 <523.1/NAK>
 近代建築さんば 藤村郁雄/文 <523.164/FUJ>
 設計の設計 柄沢祐輔/[ほか] 著 <525.1/SEK>
 まちの居場所 <526.36/MAC>
 現代建築家による“地球(ガイア)”建築 <527/GEN>
 おひとりハウス 篠原聡子/著 <527/KUU/26>
 東京R不動産 2 東京R不動産/著 <527/TOU/2>
 厳選建築家名鑑 <527.1/GEN>
 建築家のピカイチ間取り集 <527.1/KEN>
 「就活」学生のための建築界図鑑 <520.9/SHU/12> **就**

まんが表現学科

新ポーズカタログ 1: 女性の基本ポーズ編 <701.5/SHI/1>
 新ポーズカタログ 2: 男性の基本ポーズ編 <701.5/SHI/2>
 服のシワの描き方マスターブック <726.1/HAA>
 マンガの教科書 <726.1/MAN>
 フランスのマンガ 山下雅之/著 <726.1/YAM>
 名作アニメの風景50 <778.77/MEI>

映像表現学科

デスクトップをデザインする本 <007.63/DES>
 デザイナーズ・デスクトップ; 2 <007.63/DEZ/2>
 デザイナーズ・デスクトップ; 3 <007.63/DEZ/3>
 デザイナーズ・デスクトップ; 4 <007.63/DEZ/4>
 Photoshop 3D Rafiq Elmansy/著 <007.63/ELM>
 ジョセフ・クーデルカ ジョセフ・クーデルカ/著 <234.8/KOU>
 文化庁メディア芸術祭 <702.16/BUN/09>
 経験のスナップショット 高木修/著 <704/TAK>
 光の言葉 <740.2/HIK>
 マヌエル・アルバレス・ブラボ写真集 <748/ALV>
 アナトリア 鬼海弘雄/著 <748/KIK>
 森山大道 <748/MOR>
 さよならアメリカ 森口裕著 <748/MOR>
 レオ・ルビンファイン <748/RUB>
 Camp Okinawa 東松照明/著 <748/TOU>
 ゴダール・映像・歴史 <778.04/GOD>
 鋼の錬金術師原画集 荒川弘/原作 <778.77/ARA>
 MotionBuilderではじめる2.5Dアニメーション <778.77/TAK>

クラフト・美術学科

未来派1909-1944 <702.06/MIR>
 瀬戸内国際芸術祭2010 <702.06/SET>
 横浜トリエンナーレ <702.06/YOK/11>
 眼と精神 <702.35/MET>
 William Kentridge <702.4/KEN>
 ミニマリズム <702.53/MEY>
 絵でわかるアートのコトバ <703.6/EDE>
 三菱が夢見た美術館 <708.7/MIT>
 空気の港 <710.87/KUU>
 絵を用い、絵を創る 馬淵美帆/著 <721.02/MAB>
 篠原有司男展図録 <723.1/SHI>
 どうせなにもみえない 諏訪敦/著 <723.1/SUW>
 マネとモダン・パリ <723.35/MAN>
 オルセー美術館展2010 <723.35/ORU>
 Cy Twombly <723.53/TWO>

図書館アルバイトのおすすめ!!

図書館では現在、3人のアルバイト学生が働いてくれています。そのうちの1人に、自己紹介がてらおすすめ本を挙げてもらいました。

09F0011 岡本 昌之



『卒業』重松清/著<B913.6/SHI>

私がオススメする一冊は、重松清の『卒業』という本です。重松清は、身近で現実的なテーマを取り上げることの多い作家で、この『卒業』という作品も、身近にありそうな家庭や人間関係を描いた短編集です。各物語の登場人物が、親しい人の死を通して、それぞれの意味での「卒業」へと向かう物語です。



図書館職員のおすすめ!!

テーマ

「心が温まる本」

寒い日に心がぽかぽか温かくなる、スープみたいな本を選んでみました。どうぞ味わってみてください。

『あの空をおぼえてる』<B933/CAR>
J.L.ケアリー/著
妹の死を嘆くばかりの両親のそばで、ひとり生き残った少年は行き場のない想いを妹への手紙として綴り始めます。
(Y.K)

『神様のカルテ』1、2 <913.6/NAT/1,2>
医師栗原一止と細君の様名を通して、人のやさしさが心を救い、心を癒す。読んだ人すべての心を温かくする本。
(図書館事務室長)

『しゃばけ』島中恵/著 <B913.6/HAT>
主人公とかわいい妖怪が繰り出すミステリーです。過激な表現や堅苦しい文体はないので、読みやすい本です。
(R)

『きょうはなんのひ?』
瀬田貞二/作 林明子/絵 <B726.5/HAY>
両親の結婚記念日にまみこちゃんが用意したサプライズプレゼントとは?ワクワクドキドキした後、心がぽかぽかに。
(M)

『ルリユールおじさん』いせひでこ/作 <B726.5/ISE>
絵が美しい!眺めているだけで癒やされます。ルリユール=relieurとは、フランス語で製本職人。
(W)

『熊谷守一:木村定三コレクション』<723.1/KUM>
仙人のようなモリカズさんの描く、たまご、雨水、カタツムリ、そしてねこの。のんびりした気分になりますよ。
(C.M)

『博士の愛した数式』小川洋子/著 <913.6/OGA>
記憶が80分しか持続しない天才数学者と家政婦の「私」、阪神タイガースファンの10歳の息子のふれあい物語。(つるかめ算から出直したいM)

『男子』梅佳代/著 <748/UME>
かつて憎むべき存在だった「男子」が、今見れば愛すべき「がきんちよ」。全開のおバカっぷりにくっ、の写真集。
(U-ko)

貸出ランキング TOP5! [2011年7月~11月]

図書

- 1.世界素描全集(シリーズ) <723.08/SEK/*>
- 1.狼と香辛料(シリーズ) 支倉凍砂/著 <B913.6/HAS/*>
- 3.作画資料ポーズ集(シリーズ) <726.1/SAK/*>
- 4.地球の歩き方(シリーズ) <290.9/CHI>
- 5.スーパーデッサン(シリーズ) 鶴岡孝夫/著 <725/TSU>
ほか2点

AV

- 1.借りぐらしのアリエッティ <A778.77/KAR/1>
- 2.サマーウォーズ <A778.77/SAM/1>
- 2.告白 <A778.21/KOK/1>
- 4.ハウルの動く城 <A778.77/HAU/1>
- 4.アフターライフ <A778.253/BAI/4>
ほか1点

お知らせ

長期貸出スタート

1月18日(水)より学部生・大学院生・教職員の皆さんを対象に春期の長期貸出が始まります。返却期限日は4月16日(月)です。

蔵書点検のお知らせ

3月2日(金)から3月10日(土)まで、蔵書点検のため閉館します。皆さんにはご不便をおかけしますが、ご協力の程お願いします。

卒業・修了予定者の返却日

学部4年生及び大学院修了対象者の皆さんが1月18日(水)以降に借りられた図書の返却期限は、2月7日(火)です。本学大学院に入学される方も一旦2月7日(火)に返却していただきます。閲覧・AV資料の視聴や図書の複写などは卒業・修了式まではできますので、ご利用ください。

短期アルバイト募集

春休みに図書館で青春の汗を流しませんか?
募集人数:男子3名(体力に自信のある方)
雇用期間:3月3日(土)~9日(金)
【※日曜日を除く6日間】
時間:10時~17時【※昼休み1時間含む】
給与:6,000円/日(QUOカードで支給)
仕事内容:蔵書点検(棚卸し)作業ほか
※詳細はホームページでご確認ください。

春期休業期間の開館時間の 変更

2月8日(水)から4月10日(火)までは、開館時間を9時~17時に変更します。開館日や開館時間の変更などはホームページでご確認ください。

The Gallery of KDU Library

貴重書展

「Les Modes Parisiennes(パリジェンヌのモード)展」
期間:1月16日(月)~3月31日(土)
※閉館日は除く

一般図書の展示

1月「映画の原作本特集~観てから読む?読んでから観る?~」
2月「しかけ絵本の世界」

AV資料の展示

1月「ドキュメンタリー作品特集」
2月「フランス映画特集」

開館スケジュール(2012年1月~3月)

※スケジュールは変更する場合があります。最新情報はホームページでご確認ください。

□ : 9時~19時 □ : 9時~17時 □ : 15時~19時 □ : 閉館日

1月						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

2月						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29			

3月						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

編集後記

リニューアルした『ビブリオテク』はいかがでしたか?

これからも皆さんに役立つ図書館の情報を掲載していきますのでどうぞよろしくお願ひします。

あなたのオススメ本を『ビブリオテク』で紹介してみませんか?

興味のある方は図書館カウンターにお声がけくださいね!